

眞夏の不動靈場巡禮

赤谷慶子

今年は十二年に一度巡り来る關東不動尊のご開帳なり。全三十六箇所、全ては参拜できぬが、近場より友人たちと歩み始めき。

まづは三軒茶屋にて九時半待合はせをし、太子堂の目青不動尊より参る。大きな御神木寺の眞ん中にありき。樹齡何百年ならむか、幹の巨大さに壓倒せらる。

次は、等々力不動尊へ参るため、等々力驛へ向ひたり。等々力溪谷を歩みて上がると地圖には掲載せられてあり。案内によるとこの溪谷は大量の湧水臺地を浸食して出来したる溪谷なりと。猛暑といふに、雑木林の中に川流れ、冷涼なり。東京の中にこのやうなる自然ある事自體に驚きを禁じ得ず。等々力不動尊は戰國時代に深澤より移り來たりし満願寺の境内に隣接したり。古來よりこの溪谷は存在し、七世紀頃よりの横穴式の古墳等發見せられたりと明記してあり。等々力驛に戻ると既に十一時を過ぎたり。早めの晝食をとり、目黒不動尊へ向かひき。

目黒不動は等々力とは對照的に都心に近く、人通りも多し。飲食店等も散見せらるれど、生憎夏休みの店多き。この時間になると猛烈なる暑さに襲はれたりき。熱中症避けむがため、喫茶店探すもなかなか見つからず漸う開きたる店に入ると、珍しき水出しコーヒーありき。つひに冷たき飲み物にありつけ一同安堵しき。しかれども、なほ脱水症状に陥らんと懸念ありて、もう我慢ならず、友人とタクシーに乗り歸宅の途につく。夏に都心を巡禮するは些かの難儀なり。

翌日都心の気温は三十七度を記録したりき。この湿度と高温、オリンピック開催中観光客の熱中症續出するにあらずやと憂慮すること頻りなり。

(平成二十九年八月二十一日受附)